4-9	演題	スライディングボードの活用
	副題	～スライディングのより効果的な活用～

		法人名	社会福祉法人 たちばな会
		施設名	特別養護老人ホーム　天王森の郷

発表者名（職種）	山田　遥奈 介護職員
共同発表者	村尾　一
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市泉区和泉町 733
TEL	045-804-3311
FAX	045-804-5005
メールアドレス	tennomorinosato@tachibanakai.or.jp
URL	http://tenmori733.jp

今回の発表施設またはサービスの概要	当施設は、横浜市と藤沢市の境に位置し、緑豊かな自然に囲まれた環境にある従来型特別養護老人ホームです。定員 150 名（本入所 143 名、短期入所 7 名）。地域密着型通所介護・居宅支援事業所を併設している。

研究の目的、PR ポイント

【はじめに】
近年、お客様のケア重度化に伴い、職員の身体的負担が増加している。特に移乗介助においては、2 人介助が必須のお客様数が増えるなど顕著である。

取り組んだ課題

職員とお客様双方の負担軽減を図るため、スライディングボードを導入し、スライディングボードの効果的な活用方法を見出し、さらなるケアの質向上や事故の防止に繋げていく。

具体的な取り組み

取り組みは以下の通り。
① 研究対象
　2 人で移乗介助を行うお客様
② 研究期間
　令和 4 年 7 月～ 10 月
③ データ収集及び分析方法
　月ごと各フロアのスライディングボードの活用方法や状況について情報を収集し分析する。
　（サブリーダーが情報収集し、リーダーがまとめる）
　その中で、職員視点・お客様視点でそれぞれ良かった点と悪かった点をまとめ、評価と今後の課題抽出を行い、その中で良いと思われた方法を研究の成果として各フロアに周知し実践できるようにしていく。本研究の成果として良かった点も併せて周知して、今後のケアの質向上に繋げていく。
　⇒手技に関して基本的方法は、リスク委員が昨年度情報周知のため、詳細を発信しており、不明点はリスク委員会で確認する。

活動の成果と評価

良かった点
（職員）
・ 職員の性別や身長に関わらず、スムーズな移乗介助が行えた。
・ 新しい福祉用具を使用する事への関心が多く見られるようになった。
・ スライディングボードの使用対象となるお客様は、2 人介助が必須となり、無理な移乗を行うことが減った。
・ 重力に逆らうような移乗ではなく、滑る様にして行うため、腰痛軽減になった。
・ お客様の体格に関係なく、移乗がスムーズに行えた実感がある（以前は力技で行うケースが多かった）
（お客様）
・ 原因不明の事故が軽減した。
・ リラックスした状態で移乗を行えているお客様もいる。
悪かった点
（職員）
・ ボードの定着までに時間が掛かった（やり方が難しい）。
・ 角度を合わせたりセッティングの時間が掛かるため、離床介助に大きく時間が掛かってしまう。
　※ 1 ケア 1 消毒でかなり時間を掛けている。
・ 起床時や就寝時に時間を掛ける必要があり、食堂の見守りが手薄になる時間が発生する。
（お客様）
・ エアーマットを導入しているお客様は、マットの高さのせいでやりにくい。（やや抱えるような動作が入りがちになってしまう）
・ 入浴時に活用できない。
・ お客様の ADL によっては、ボードの上を滑りにくい事例もある。
・ リクライニング車椅子の種類によって、チルト式でないものはかなりやりにくい。

今後の課題

・ 移乗にある程度時間が掛かる事を想定したオペレーションの改善が必要。
・ 入浴時にストレッチャーや入浴介助用椅子への移乗方法を考慮し検討していく。